◆大会会場/プログラム/イベント担当から

北島律之
副幹事（長崎総合科学大学）

天候にもめぐまれ、3日間の長崎大会を、何とか終了させることが出来たことに安堵している今日この頃です。これは、参加されたみなさまの熱意のたまものであるにちがいなく、心より感謝している次第です。どうもありがとうございました。さて、以下に、みなさまが今大会を振り返るときにお役に立つことを期待しながら、私が今回担当させていただいた事柄について手短に振り返らせていただきます。当然ながら、どれも一人の力でできるものでなく、実行委員の方々、アルバイト学生諸君と共にやり遂げたものであり、私が代表で文章を書いているだけに過ぎないことを申し添えておきます。

「会場について」

長崎市の繁華街近くにある「長崎ブリックホール」は、県内で最高クラスのコンベンション施設であり、すべての発表会場とも討論を行う場として申し分なかったかと思います。特に発表会場Aとなった国際会議場は、500名以上を収容可能であり、専門のスタッフが音響などの脇を固めるという、本格指向の会場でした。今回はそこに4m × 4mの大型スクリーンを外部より持ち込み、各セッションでのみなさまの発表はそれを使って行われました。登壇者の方は心地よく喋ることができ、それを聞く参加者の方々は、落ち着いた中で思考をめぐらすことができたのではないでしょうか。ただ、中村氏（東京大学）の「参加報告」でのご指摘にもありますように、コンピュータの接続などに手間取ることもあり、スムーズな進行という点から、今後考えねばならないこともあったと思います。

「プログラムについて」

発表件数はこれまでで最多の160を数え、本当に嬉しい限りでした。その反面、「文化フォーラム」の同時開催や、東京や大阪からの交通機関の時間などを考慮しながらセッションの時間を組むといった難しい問題が生じ、少々頭をかかえることもありました。しかし最終的には、参加されたみなさまに助けていただき、村上龍氏の急病以外は、とりたてて大きな問題が生じることもなく、プログラムを進行させることができたと思います。

図5　プリンスホテルでの懇親会

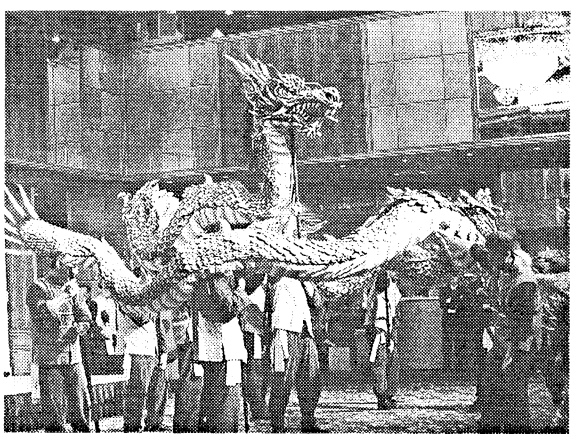

図6　圧巻の龍踊り

「イベントについて」

懇親会では進行役を務めさせていただきました。慣れないことで、どうすれば良いか、さっぱりわからなかったのですが、壇上に立たれた先生方、「龍踊り」を披露して下さった保存会の方々のお陰をもちまして、何とかやり遂げることができました。ところで、迫力満点だった「龍踊り」ですが、大会長から、そのときになるまで誰にも知られないようにというお達しがあり、最小限のスタッフが知るのみでした。ところがです。会が始まる30分程前に会場の受け付けに着いた私は目を疑いました。そこには「龍踊りご一行様控え室」と大きく書かれた表札があるばかりか、無造作に龍踊りの道具が置かれているではありませんか。さらには、あの衣装で歩き回られている方々もいました。秘密にするのも楽じゃないですね。